

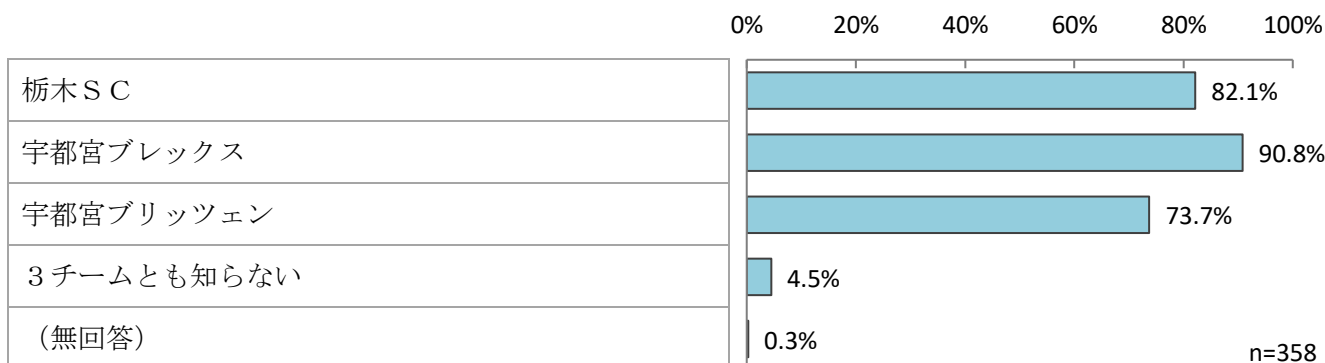
5. 宇都宮市を拠点とするプロスポーツチームについて

(1) 本市を拠点に活動するプロスポーツチームの認知度

◇ 「宇都宮ブレックス」が約9割

問20	本市を拠点に活動する3つのプロスポーツチームを知っていますか。	(○はいくつでも)	n=358
1	栃木SC		82.1%
2	宇都宮ブレックス		90.8%
3	宇都宮ブリッツェン		73.7%
4	3チームとも知らない		4.5%
	(無回答)		0.3%

<図IV-5-1>全体



本市を拠点に活動する3つのプロスポーツチームの認知度については、「宇都宮ブレックス」が90.8%で最も高く、次いで「栃木SC」が82.1%、「宇都宮ブリッツェン」が73.7%であった。(図IV-5-1)

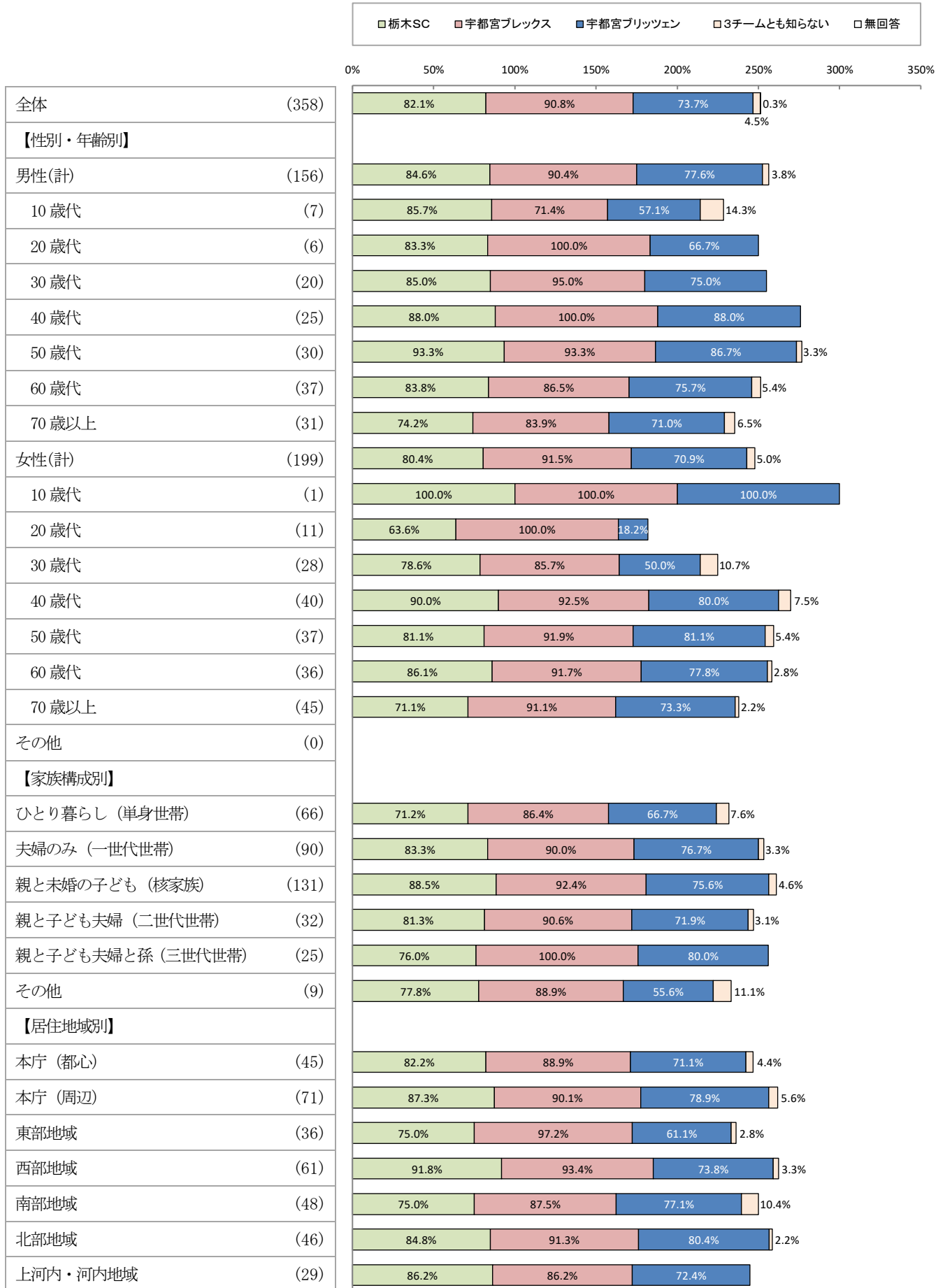
<参考>

性別・年齢別で見ると、「宇都宮ブレックス」は<男性/20歳代>、<男性/40歳代>、<女性/10歳代>、<女性/20歳代>がいずれも100.0%で最も高かった。「栃木SC」、「宇都宮ブリッツェン」は<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高かった。(図IV-5-2)

家族構成別で見ると、「宇都宮ブレックス」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が100.0%、「栃木SC」は<親と未婚の子ども(核家族)>が88.5%、「宇都宮ブリッツェン」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が80.0%で最も高かった。(図IV-5-2)

居住地域別で見ると、「宇都宮ブレックス」は<東部地域>が97.2%、「栃木SC」は<西部地域>が91.8%、「宇都宮ブリッツェン」は、<北部地域>が80.4%で最も高かった。(図IV-5-2)

<図IV-5-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

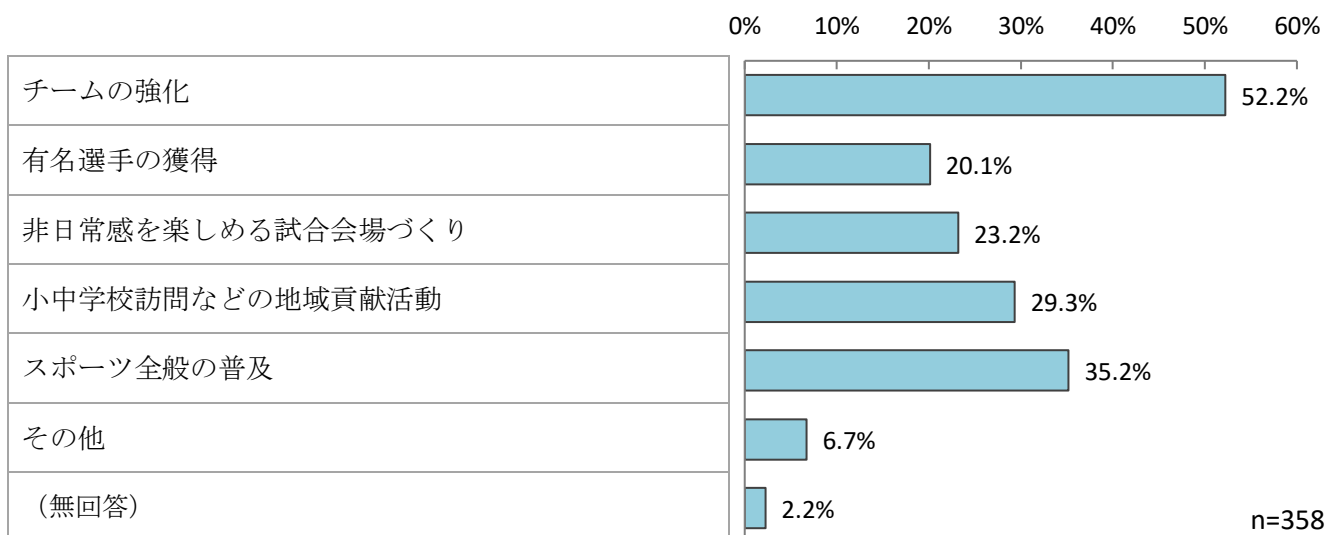


(2) プロスポーツチームに期待することは何か

◇ 「チームの強化」が5割強

問 2 1	3つのプロスポーツチームに期待することは何ですか。	(○はいくつでも)
		n=358
1	チームの強化	52.2%
2	有名選手の獲得	20.1%
3	非日常感を楽しめる試合会場づくり	23.2%
4	小中学校訪問などの地域貢献活動	29.3%
5	スポーツ全般の普及	35.2%
6	その他	6.7%
	(無回答)	2.2%

<図IV-5-3>全体



3つのプロスポーツチームに期待することについては、「チームの強化」が52.2%で最も高く、次いで「スポーツ全般の普及」が35.2%、「小中学校訪問などの地域貢献活動」が29.3%と続いている。(図IV-5-3)

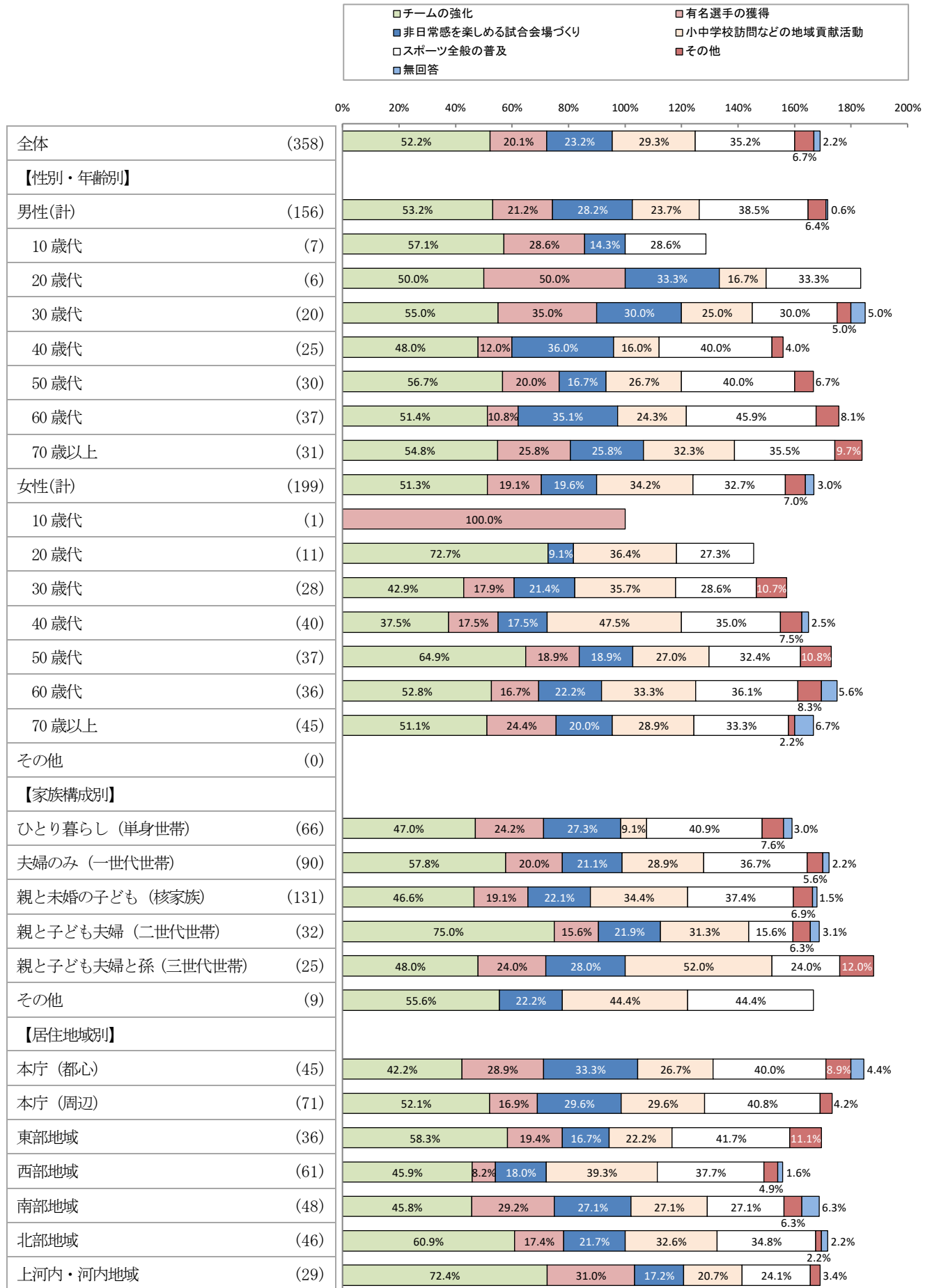
<参考>

性別・年齢別で見ると、「チームの強化」は<女性/20歳代>が72.7%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が64.9%であった。「スポーツ全般の普及」は<男性/60歳代>が45.9%で最も高く、次いで<男性/40歳代>と<男性/50歳代>がいずれも40.0%であった。(図IV-5-4)

家族構成別で見ると、「チームの強化」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が75.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が57.8%であった。「スポーツ全般の普及」は<その他>を除くと<ひとり暮らし(単身世帯)>が40.9%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が37.4%であった。(図IV-5-4)

居住地域別で見ると、「チームの強化」は<上河内・河内地域>が72.4%で最も高く、次いで<北部地域>が60.9%であった。「スポーツ全般の普及」は<東部地域>が41.7%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が40.8%であった。(図IV-5-4)

<図IV-5-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

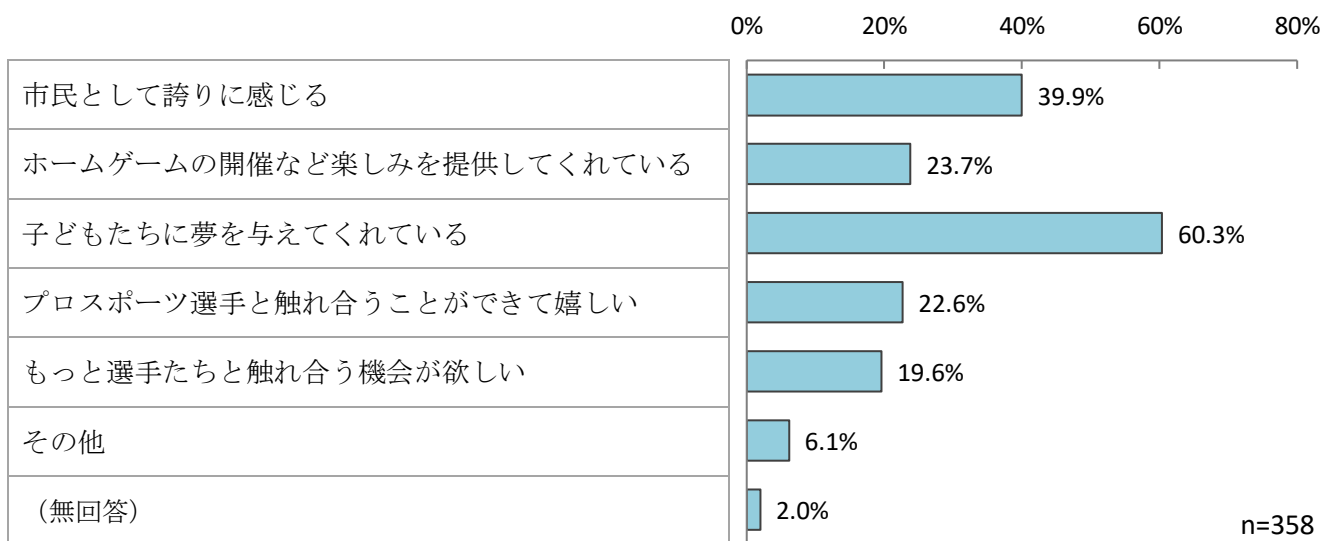


(3) プロスポーツの活躍や活動に対してどう感じているか

◇ 「子どもたちに夢を与えてくれている」が約6割

問 2 2	3つのプロスポーツチームは、試合やレースでの活躍をはじめ、介護予防教室や小中学校訪問などの地域貢献活動なども積極的に行っています。あなたはこうしたプロスポーツの活躍や活動に対してどう感じていますか。	(○は1つ)
		n=358
1	市民として誇りに感じる	39.9%
2	ホームゲームの開催など楽しみを提供してくれている	23.7%
3	子どもたちに夢を与えてくれている	60.3%
4	プロスポーツ選手と触れ合うことができ嬉しい	22.6%
5	もっと選手たちと触れ合う機会が欲しい	19.6%
6	その他	6.1%
	(無回答)	2.0%

<図IV-5-5>全体



プロスポーツの活躍や活動に対してどう感じているかについては、「子どもたちに夢を与えてくれている」が60.3%で最も高く、次いで「市民として誇りに感じる」が39.9%、「ホームゲームの開催など楽しみを提供してくれている」が23.7%と続いている。(図IV-5-5)

<参考>

性別・年齢別で見ると、「子どもたちに夢を与えてくれている」は<女性/70歳以上>が80.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が77.5%であった。「市民として誇りに感じる」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>と<男性/30歳代>と<男性/50歳代>がいずれも50.0%であった。(図IV-5-6)

家族構成別で見ると、「子どもたちに夢を与えてくれている」は<その他>を除くと<夫婦のみ(一世帯世帯)>と<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>がいずれも65.6%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が64.9%であった。「市民として誇りに感じる」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が50.0%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が45.5%であった。(図IV-5-6)

居住地域別で見ると、「子どもたちに夢を与えてくれている」は<本庁(周辺)>が66.2%で最も高く、次いで<南部地域>が64.6%であった。「市民として誇りに感じる」は<上河内・河内地域>が51.7%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が46.7%であった。(図IV-5-6)

<図IV-5-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

